間森藤　吉板記ヨ扨荘衛門
成貝十郎左ヘ門　内蔵十左ヘ門
千松勘六　吉板記ヨ森清介ヨ田口三介
塙新弥藤　一ヨ潤平左ヘ門
同　安藤　武庸筆記吉板記赤城義臣伝並ヨ長江長左ヘ門
潮田又之丞　義臣伝ヨ原田斧右ヘ門　あるひハ町人助七
冨森助左ヘ門　吉板記塙内金勝間書義臣伝並ヨ山本長左ヘ門
赤埴源蔵　吉板記ヨ高畑源蔵左ヘ門
早水藤左ヘ門　曽我金介
大石瀬左ヘ門　小田權六
奥田孫太夫　吉板記ヨ西村清左ヘ門

矢田五郎左ヘ門　吉板記ヨ坊武介　義臣伝ヨ揚武介
菅谷半之丞　町人政左ヘ門
大石主税　吉板記ヨ垣見左内
木村岩右ヘ門　吉板記ヨ石内左膳　あるひハ町人八蔵
千馬三郎兵ヘ門　吉板記義臣伝ヨ原三介
不破数右ヘ門　吉板記ヨ杉井伝右夫　あるひハ町人八左ヘ門
岩間金平　町人九十郎　按ヨ九十郎ハ妻名ヨあるべ幼名なり
貝賀弥左ヘ門　町人喜平衛
中村勘助　吉板記ヨ山彦素藤
長崎八十右ヘ門　吉板記ヨ那武八郎
大高源五　吉板記ヨ服屋新蔵

吉田清左衛門　古板記ヨ田口左平太　義臣伝ヨ田口左内
村松喜兵衛　義臣伝ヨ村松隆国　あるひハ萩野隆国
勝田彦左衛門　町人素左衛門
倉橋伝介　倉野十左衛門
間新六　杉谷新介
杉野十平次　義臣伝ヨ杉野九郎左衛門　あるひハ町人次郎兵衛
小野寺幸左衛門　古板記ヨ仙石又介
矢頃右衛門七　古板記ヨ氏ヒ清水ヨ伝る　あるひハ水木十七
前原伊助　協議武庸筆記ヨ美作屋善兵衛　義臣伝ヨ米屋平
[illegible]
村松三太夫　萩野十左衛門

間重次郎　杉浦伴七　ほゝ町人善介
菅野平八郎　冨田義平　ほゝ町人助平
奥田定左衛門　古板記ヨ西村清左衛門　あるひハ奥村丹下又町人久兵衛
三村次郎左衛門　町人素兵衛
横川勘平　三角小一郎
間瀬孫九郎　古板記ヨ三橋小一郎
神崎与平　義臣伝ヨ小倉善兵衛
吉板吉左衛門　町人伴介
同　定左衛門　町人九介
右の妻名を考ふかゝ大石が他角と稱するハ母方の姓なりて
の外の人々も親族の姓或ハ地名あるよりて仮も縁者あるとぞ名ゝ

義士江戸の陣拙

大石内蔵介ハ同盟の士こもゝ十人だゝゝゝ十月十五京師ヒ発足
し同二十六日平間村ヨ着きそれより初て主従ゝ住居てあり
石町の陣拙ヨ変名ゝゝゝ日宿ゝゝて日毎ヨ同盟の士出入す
るゝ人目をはゞゝ町人の洗ゝもなり又ハ浪編笠あても有り(本)
ゝあやゝゝゝゝる人もゝずゝゝやそれゝゝゝきゝハ一夕話ヨ忘
るゝゝゝゝて今ゝゝハその町名ゝを載す俗ヒ入て詳なること
を知るべゝ

石町三丁目小山屋弥兵衛義庫表

店借ヒ 垣見左内 大石主税

仙台中養 小野寺十内

同 五郎兵衛 大石義介

菅谷半之丞

番屋 矢頃左ゝ 潮田又之丞 高橋清介 千馬勘六

三村治郎左ゝ 若壹二人 潮尾 室井

千馬勘六ゝ僕一人

以上同宿十人

新麹町六ゝ目大屋表左ゝ 義店

店借ヒ 田口一真 吉田忠左ゝ 高の学者

和田元吉 番屋左ゝ 医師

同 左内 吉田源左ゝ

杉井仁左夫 石橋教左ゝ

以上同宿五人

同 四丁目和泉屋五郎兵衛店

店借ヒ 山彦吉兵衛 中村勘介

三橋浄貞 同流左ゝ夫 医師

那武八郎　岡角八左衛門
同断孫九郎
同小市郎
以上同宿七人

岡野九平郎　金左衛門
仙助又助　小野寺平左衛門
僕一人

同　四丁目大屋七郎右衛門店
原三助　子二人
同　新六　手代弟
扇屋喜右衛門
同　五丁目杉田屋權左衛門店
山本長左衛門　男藏助　妻子ニ而住居
同　間重次郎
中田義内　中間利平次
以上同宿五人

芝通町三丁目濱松町指和屋惣兵衛店
高島源蔵左衛門　赤地源蔵
揚武助　番頭左衛門
以上同宿二人

八町堀ゟ本町
松村隆園　村松長兵衛　妻子一ツ不住居
深川黒江町　春米屋栄店
西村丹下　番頭左衛門

同　清左衛門　番頭孫夫
丹下ハ医者ゆゑ　癖ゆゑいろ〳〵たろこれ人を松勿六の弟　但午の年
ゟ妻も清左衛門娘も内義亦の名屋ゟ嫁ル　番頭内義亦の附人
芝原助町
内義十郎左衛門　城見寺門左衛門　下人一人

村松三太夫　高橋男
冨田原五　茅野和助
以上同宿四人
南八郎右衛門　堀清平　平野屋十左衛門　長谷川
吉岡義右衛門　行方源五左衛門　清水左衛門七　矢頃左衛門七
服部彦右衛門　大石源五　田中源十郎　畠山
貝賀弥左衛門
以上同宿五人
本庄林町五丁目　紀伊国屋庄右衛門
長谷長左衛門　堀部安兵衛
横川勘平
小山田庄左衛門
水原武左衛門　手塚十郎左
石間左膳　木村岸右衛門
中村清左衛門

勢田重八郎
本庄三丁目　横町　紀伊国屋庄右衛門
杉野九郎左衛門　十平次
潮田七郎　左衛門　武林唯七
以上同宿三人
本庄二丁目　北堀町　三丁目　米屋柴右衛門
米屋五郎兵衛　前原伊助　徐布七郎兵
小豆屋善兵衛　神崎与五郎　初八扇子七郎兵衛　浅小穀物菓子の類
僕一人
膳田新左衛門

210.3
3

赤城義雜集

冬

210.5

赤穂義士隨筆巻之四

同録

義士平間村の居屋
義士男子姓名
芝泉岳寺義士墳墓の図
同所南條氏の碑銘
同　亀田鵬斎の義士碑文
同　妙海尼の墓
京師紫野瑞光院の図
播州赤穂華嶽寺忠義塚
義士哀歌

菅氏所蔵

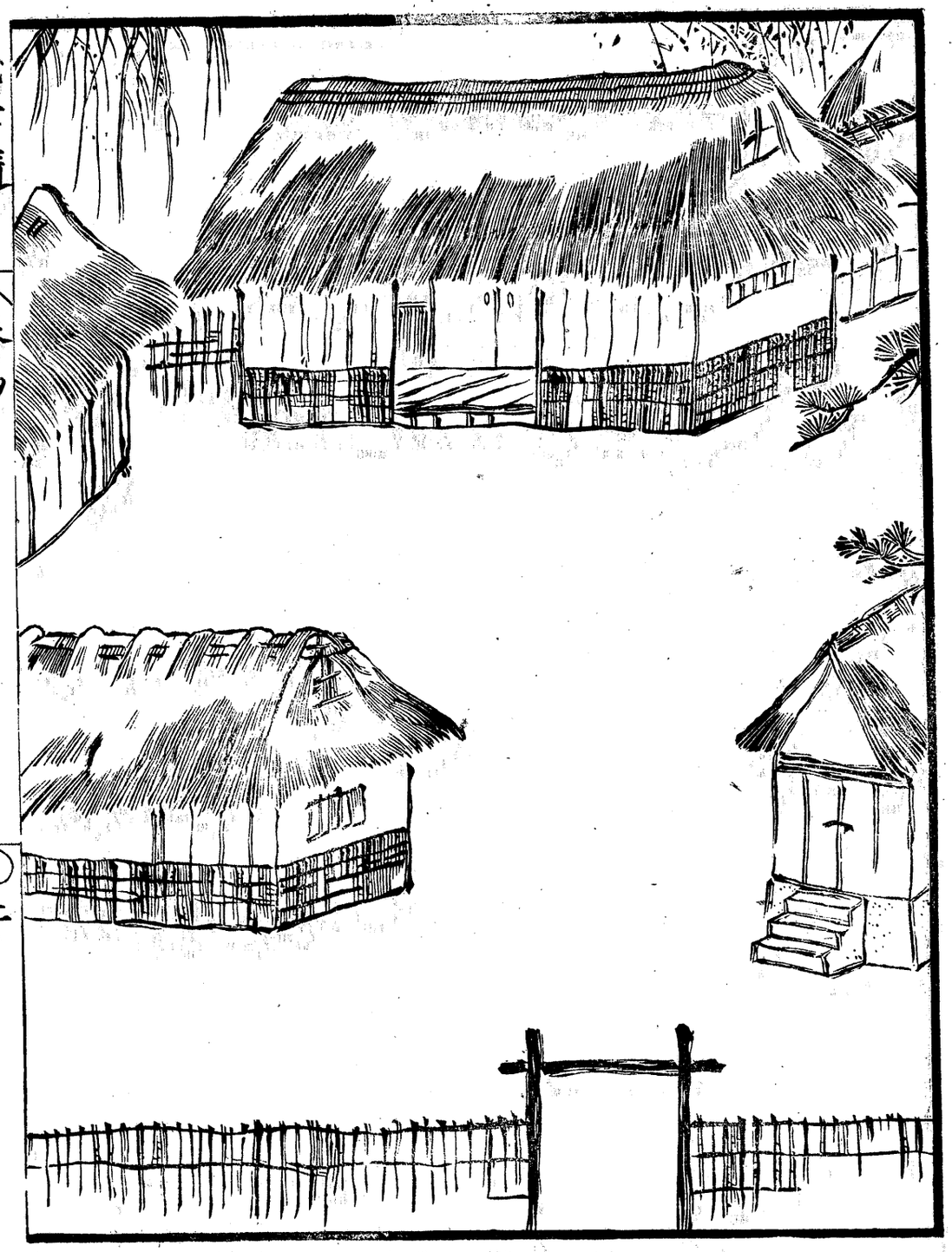
東京帝国大学図書館
51120
昭和
寄贈

無名氏哀詩並引
義士平内奇
清国尼会招辯才天
小野寺秀和像賛
同　経冊　書簡

赤穂義士隨筆　巻之四

義士平間村の僑居

武州川崎ノ平間村ハ百姓軽部五郎兵衛が宅へ義士の内年来知人ありて暫ハ平間村の僑居しがその手筋よりれば言葉も村中の親子まで本とつたしいとそのの人の世話とそ〳〵ろ村内一美の子の口入れセしゆゑ平引なく日と立てゆゑ京都より下れる武士の人〳〵数多暫ハ村内ハ強くず農業ハ出るそのあとあそ酒宴とたゞあ茶舎と呼〳〵おの〳〵夕方ハ酔ひ一夜日を江戸へ〳〵茶舎ありて朝より出ケ場りおそくとも持とかうれとて会ゆゑろはあいさつ〳〵旅立ぬ赤穂の者も何人〳〵居さ



まーづ一ぢるゐて孫ゝねん庚申の若氣よりすり事ゝ江戸廿三原
今町より知る人あると安おもひられバその方までも暑ねんとて十二月
十四日未明より雪ねがてゝ平河村を出て言葉あうよ亦れバ海邦
の郡中主人の雙方をうちて泉岳寺へあつまるとのうちさみて人数の
羣集ねがてゝ扨ハ者人その内よりあゝんといろぎ大手戸内て形合さ
るふ吳形のより中て無よるまりるまゝつるハまゝ合ごろあるふ世
張よるりかゝげはしろハ本神をげうよろこびられよといられて仰
天のあまり氣絶ゝるゞ人の今抱ふゝ快ゝあり在ふ人頃りあゝ
きるとねゝ名バ村さとの外人部ゝるゞ何の事もあゝゝと
ふ云